

基盤研究 C

<里親家庭から巣立つ若者の自立支援と共感性に関する研究>の第2回会合 (3/18)の記録

- ・(中山) では本日の会合を始めます。申請書に書いた研究概要を説明します(省略)
- ・(深谷) 一昨日、本日の会合に向けて作成した資料をメールでお送りしましたので、再掲します。これにもとづいて、いつか提案をさせていただきます。

○課題をめぐるメモ(深谷和子)

- 1 (報告書で有意な結果が見られた) 共感性の項目の吟味、または新規作成
より客観的なものにするための項目にするために、統計に詳しい金城先生にお考えをお聞きしたい。
- 2 里親の日常におけるつまづきの具体例(将来の自立性との関連で)
現在、どんな部分で養育につまづいているか(乳児、幼児、小中高段階で)
丁寧に自由記述のなかで調べていけないか、把握できないか?
○しつけ
○気持ちの通い合い
○学習面その他
- 3 里子の集団内地位(クラスの中でどんな子どもか) 将来の自立に関わる
リーダー的振る舞い 親しまれているかどうか
現在の子どもの像について追求できれば、巣立った後の里子の自立性の予測にかかわる。
ほんとうは自立した里子に対するアフター調査が必要。 → 実際には難しい。
豊富なキャリアと事例をもつ里親さんに書いていただくと、いいのではないか。

(中山) 過日、内山先生からいただいたメモ(主略)にも、この3番目の内容があるように感じました。

○自立と共感性

本日用意したメモ(省略)の説明をします。(青葉)

- 1 里子の自立について
 - ・子どもの頃の自立については、何をもって自立とするか、共通点を上げないと困る。社会に出た時の自立の尺度がないので、実際の姿をいくつか例を挙げて、このうち自立していないのはどれかあげてもらおうと、自立とは何かわかるのでは。
 - ・自立にはいろいろな姿がある。最終的には自立したい意思の強さで決まるのではないか。

- ・精神的な面、いわゆる病的な部分、発達上のつまづき等で、里親が困っている。

2 里親不調を共感性の視点から考える

- ・大人になったときの自立を考えたとき、自立の質が問題なのかと考える。
行政もこれまで、自立させればよいと言っていたのだが、事例からも、自立の質を問う、こうした点に焦点をあてた養育をと考える必要がある。自立の質の中で、突飛に思われるかもしれないが、遊びの要素が少ない。里親は遊び方が下手なので、そのあたりが教えられない。里子は裾野の狭い人間になっていくのいかと感じている。このあたりが里親に課せられた課題になるかと思っている。
- ・マスコミ報道等の影響で「里子は貧困で、孤独で、孤立して可哀そう」というイメージがあるが、実際に里子に会うと、あっけらんとしている。お金の話もしないし、孤立している印象も少ない。青春の孤独や寂しさは背景にあるが、マスコミが言う孤独とは違うイメージを持っている。今の里子は贅沢で、安いアパートには住まないし、マンションの個室に住みたいとか。実際にそうしている。
- ・「共感性」については、里親は寝食を共にする人間関係の中で共感性を考えると、そういう領域があるのかなど、医者が患者との関係で考えるような共感性とは違う。一番の違いは「みんな我慢して暮らしている」ということです。突き放すことは出来ないし、子ども（里子）は出ていくことは出来ないものでみんな我慢している。共感性と言うより、忍の一字で暮らしている里親、里子は結構多い。
- ・具体的に、里親がアンケートに答えやすいのは、「分かり合えるようになった時」と「どうしても分かり合えなかった」分岐点を探すが、共に暮らす人の共感性の目安になる。
みんな具体的な出来事を持っているので、その聞き取りならば、ときやすい。里子も答えられる。里子と里親のすれ違いのようなものが出せるのかな。

メモの2枚目は事例についてまとめたもの。この中で自立していない事例は無いように思う。死なないうで生きているのが自立だと考えると、みんな自立している。ただ、死なないうで生きている中身が問題になるのかと。

病気や障害で生活保護を受けている等の話を割り込ますと、そういった例外的な話題がメインになり、里子は自立できていないとなってしまうが、一般的には、世の中で元気に生きていく、自立していくにはどうするかということが課題である。

(深谷昌志)

基本的にどうするのかと思っているのは、これまでのデータでは里親さんの8割から9割は小さなお子さんを預かっている。自立に関係する年齢のお子さんを育てている里親の割合は少ない。小さいお子さんを預かっている里親さんに「自立とは」と聞いても、ぴんと来ないのではないか。これまでデータとのギャップを考えている。

(池上和子)

里親の受託状況から、いま深谷先生が話されたことはあてはまると思う。リアリティをもって回答できないことも考えられるので、調査の対象を絞り込むなど必要があるかと思います。

(中山)

養育経験のある方に、先ほど青葉さんが話された分岐点に関してのエピソードをたずねることは可能でしょうが、深谷昌志先生の指摘された、現在養育されているお子さんの年齢に関してアンケートをどのように実施するかは課題はあると思います。

○里子のアフター

(深谷昌志)

・それを踏まえて、感覚の問題として、今預かっている里子さんの問題ではないが、一般的に里親家庭を巣立った元里子のその後について、どのように考えているのかは関心を持たれていると思う。意識調査、イメージ調査のようなものは意味があるのではないか。

(深谷和子)

・私の提出したメモに、「つまづき」の具体例と集団内地位をと書きました。これに関係して、乳児、幼児、小中高段階でと書きましたが、実は小さい子を預かっている里親にこのことを聞いてもあまり意味はない。むしろ、間もなく巣立つの時期を迎える中高段階の里子を預かる里親を対象にした丁寧な調査（自立の見通しを聞くとか）が出来ないか。

・事例を集める。里子のアフターについては行政がもっと入念な調査を行うべきだが、伝聞になるが里親さんの方から集めたいはどうか。

(中山)

次にどのような内容を聞くかについては、テーマに関係してどのように議論を積み重ねて行けばよいでしょうか。

(深谷昌志)

・いま預かっている里子とは別の問題にして、里子の自立についてどう考えているか、なにが欠けているかなどの意識調査となるでしょうか。

(青葉)

・小さい子を預かっている場合、それは難しいかと思う面があります。小さい子の場合は学校の成績を良くしようとか、お習字の教室に行こうとか、そういう感じのことで頭がいっぱい。大人になった時のこの子たちの暮らしが、実際にはあまりよくないですね。レポートに示したが 25 歳で差が出てしまう。

・2 年間にも同様な内容の調査を行ったが、あのデータは使えない感じがしております。あまりにも漠然としているので。

・前回の調査で数的に使えると思ったのは、里子を巣立てた親の方がご回答くださいますの箇所で、173 人の方が回答しているところです。

(深谷和子)

・メモに乳児、幼児、小中高段階で書いたのは、できたら巣立ちが直前の中高生を抱える里親に、「自立の準備をさせているか」「そういう養育をしているか」それを聞いた方がいいかと考え、発達段階をメモに書きました。これに関係して、青葉さんにお聞きしたいのですが、メモの中に「遊びの少ない養育」の言葉がありますが、よく意味がわからない。でも大事なことのように思えるので教えてください。

○遊びのない成長

(青葉)

・具体的に、高校生ぐらいの段階で、友達付き合いが実は非常にできていない。よく駅前で高校生がとぐろを巻いて、半分悪さをしながら騒いでいるでしょう。あう言う部分に里子は参加していない。あういうところがないと、大人になって幅の狭い人間になってしまう。実は里子にそれを求めるのは無理なんですよ。出自の劣等感があつたり、家に友達を連れてこれないとか、自分のことを話せないとか。これは施設の子も同じです。子どもを育てるうえでこれがネックかな。ともかく学校では友達がいない

んです。ここが私は一番の問題だと思っている。あの子が悪いわけではないんですがね。

(深谷昌志)

・友達に自分の育ちを話しぶらいですか。

(青葉)

・そうですね。どうしても一歩引いてしまうんですね。だから駅前でああいうふうにあわああ騒げない。

(深谷昌志)

・中高生になっても、友達の家への行き来や付き合いがないということですね。

(青葉)

・実際にはないんです。言われたことはきちんとする。与えられた宿題をすとかはやるんですが、はみ出たことが出来ない。

(深谷昌志)

・部活はするんですか。

(青葉)

・部活はやりません。先生のいるところでは、できるんです。それを離れるとできない。部活が終わったあと、みんなでマクドナルドへ行ったりすることがない。すぐに家に帰る。

(深谷和子)

・今の話に関係して、メモの3に書きました里子の集団内地位とは、それなんですか。集団の中でどのような地位にいて、どのような行動をしているのかを明らかにすることが、今青葉さんが話されたことにつながるかと思う。

(中山)

・友だちがいない。部活のあとにマクドナルドに行くようなはみ出した行動をしないなどについて、こうした点に焦点を当てた調査をすれば、どのようなことを聞きことになるのでしょうか。

(深谷昌志)

・アンケートであれば、かなり仮定法のようなものになるでしょうね。仮にどうでしょうか、コンセプトを聞くような感じだろうと思います。ストレートの質問ではなく。

(中山) 集団内地位についてどのように尋ねればよいでしょうか

(深谷和子)

・将来どうなりそうかを聞いてもあまり意味はないので、中高生の里子を抱える里親さんに、今の集団の中で、里子がどのように社会性を発揮しているか、リーダーシップをとっているか、孤立をしているかとか、遊びがあるかとかを含めて、行動の幅の広さを聞けば、近未来の里子の自立が推定できるかなと思いました。

(中山)

・遊びの少ない養育の記述については、私も関心があり、会の始まる前に青葉さんにお聞きしたところ、別の視点で里親の皆さん自身がたいへん真面目な方が多いので、養育自体が真面目な取組となっていて、調査の結果によっては、養育の在り方を見直し、もっと幅のある養育を目指す必要性があるのではと気づききっかけになるのではないかと思います。

(深谷昌志)

・青葉さんにお聞きします。小さいお子さんを預かっている里親さんが多いわけですが、そういう里親さんたちは、あまり先のことは考えないようにしているのでしょうか。

(青葉)

先のことは考えていると答えるでしょうが、実感がわからないということです。大人の自立の意味でですが、我々も含めて子どもの頃は、悪いことをしてはいけませんよ、と教えますけど、大人になったら場合によっては悪いことをしたっていいんだよ。生活の知恵としてあるわけで、男女関係でも何でも、全然価値観が変わってしまう。大人の尺度のある所で教えなければいけないですよ。私のところに集まってくる子たちも「新宿にナンパしに行くか」なんて言っています。こういうことは学校での生活では教えないですからね。

(深谷 和子)

ただですね。里親たちは里子を預かっていることで、他の親たちの集まりの中で肩身の狭い思いをしている。虐待をしているとか、粗末に扱っているとか、そういうことを言われたくないので、里子を預かっているとか、ちゃんと養育していますよということを披瀝したいとの思いがあって、PTAに出ていると思いますね。幅の広い養育と言っても、実子の場合の幅の広さと違って、里子に対する幅の広さにおいて世間の目を意識する点で違いがある。ですから遊びの少ない養育は困ったもんだと言っても、そうせざる負えないような里親たちの構えがあるのではないのでしょうか。こうした真面目な里親さんが、里子を育てている現状があるのではないのでしょうか。

(青葉)

その通りだと思います。子どもも、卒業し巣立った子どもたちに聞くと、「俺は遊びたっか」と言います。共通して。遊んだ経験がとても印象に残っていると聞きます。ですから新宿行こうとか、年寄りじみて「釣りに行こうか」って言うと、みんなでわっとうちに行きます。半端ない遊びで禁漁区で釣りをして、わあわあ騒いでくるんですよ。18歳までは教えられなかった。自立の意味が違うんですよ。子どもに対する教え方と実際に大人になった時の自分たちの感覚が。そんなわけで 25 歳くらいでみんな落ちこちていく。素晴らしいと思っている子がみんな落ちちゃうんですよ。

(深谷昌志)

確かに5、6年生や中学生になると、群れてわいわい集まっていますよね。群れているけれど、里子さんの場合、その中に入って行きにくいわけなんですね（「そうです」青葉）。

(青葉)

群れのなかで、社会性を身につけるんですよ。

(深谷昌志)

群れから外れているんですね（「そうです。はぐれ鳥です」青葉）。学校の中では暮らせるけれど、イ

ンフォーマル集団のなかには入り込めない。深刻ですね。

(青葉)

だから大人になると、幅が狭くて、人間嫌いに思われてしまう。それに悪いことをあまりしないから。青春時代はみんな悪いことをして、いろいろ覚えるのではないですか。それを大ぴらに言えませんしね。

(深谷昌志)

難しいでしょうけど、青葉さんなりに、今のところで、何か答えは用意されていますか。こうすればよいとか。

(青葉)

「世間にはまった生き方ではなくて、とぼけた生き方しろ」って言っているんですよ。そのほうが、結果的に 25 歳過ぎてから、何か一言言える大人になっている。真面目過ぎるんですよ。里子と言うか、施設もね。その点、施設の方がむしろ真面目過ぎます。里親の場合、夫婦でやっていますから、どちらかが真面目でも、片方が不真面目であればバランスがとれている。

○スマホ問題

(池上)

青葉さんの話を伺っていて、あたり前だと思っていたんですが、社会的養護の場合、原則として携帯が持てるのが高校生以上なんですね。その理由は携帯費用が措置費では出ないんです（子どもがアルバイトをして捻出できる年になったら、持つようにしていよ）。

未成年者が携帯を保持するときは、契約に親の承諾が必要ですね。その際は実親からとる必要がある。連絡がとれない、場合によってはとらないほうが良い時がありますね。実際に施設長が契約者になればいいのですが、事実上認められなくて、数年前にソフトバンクなどが認めはじめましたが、里親さんの場合、そのあたりゆるやかかもしれません。

マクドナルドの話ではありませんが、施設の子の場合、高校生が帰りにユニクロに寄って、あの新作がいいとかと話して、お小遣いで購入する。お小遣いは、措置費から出るもので良いのですが。ただ、使った金額を、10 円単位で記録しておかなければいけないんですよ。また施設の場合、被服費は夏と冬に出るのですが、出た時に職員の人と購入するので、自由度が低い状況があります。これはイギリスでも同様な傾向があって、週末に友だちから誘われた時「週末は学校以外の人と過ごすのが好き」とか言って、誘いをブロックするなど、群れることに抵抗がある。大学、会社に入っても、職場の人間関係とプライベートの境目を緩やかにすることが、やがて大人の社会人の関係を作る上で必要ですが、課題が多い。

スマホを持ってないことでラインとかでの連絡がとれないとかの問題もある。

さらに施設間で扱いが異なることがあり、自由度の違いがあって、施設によっては、友だちが遊びに来て、職員がおやつを出したりしている。里親家庭も、それぞれ違いがある。思春期の時期における対応の違いは、すごく影響があるように思う。青葉さんの話を聞き、スマホと小遣いの厳格な縛りについては、精神面や発達面に影を落としていると思った。

(深谷和子)

いま話を伺って思ったのは、自立性とは、言葉を代えれば生きる力、たくましきのようなものだ、と思う。それは里親養育に限らず、一般の子どもの成長の場合にもあてはまる。私たちの過去を振り返れば、生きる力は仲間関係や人間関係で養ってきたように感じる。今は池上先生のお話にあったように、スマホと向かい合って暮らしていますから、これは里子の問題だけでなく、子ども一般の子どもから、

自立性、生きる力が失われているのではないかと危惧しました。

○「聖と俗」

(深谷昌志)

「聖と俗」という有名な概念があります。学校と言うのは「聖」なんですね。理想的なことは理想的に言う。「俗」というのは、そこに悪みたいなのがいっぱいあるんですが、授業とは聖です。望ましいことを望ましくやっている。で、仲間とごちゃごちゃやっているのが、悪なんです。しかし俗で育つ部分は大きい。里子さんたちは俗の仲間に入れないんですよ。学校に行っていて、聖の文化には入っている。しかし、俗の文化に入っていないと、成長が非常に偏ってきたり、細くなってくる可能性がある。と言って中学生ぐらいに、ごちゃごちゃやっていく中に里子が入っていくのは難しいとなると、今日の議論はとても大事で、育ち、自立の偏りのようなものの、根の深さが分かるような気がします。

(中山)

確かに幅広い人間関係を持っている人は魅力があると思いますが、真面目人間には気づけない課題があると自分自身で気がつきました。金城先生、いかがでしょうか。

(金城)

途中からの参加で失礼します。すでに議論を済ませたかもしれませんが、今回の調査は里親さんに対する調査なのか、里子さんに対するものなのかでその様相は異なると思いますが、いかがでしょうか。

(中山)

基本的には今回は里親さんに対する調査を進めることで議論してきました。説明がなくて失礼しました。さて友達関係のことに話を戻させていただきます。私は里子たちは自然に仲間が出来て、比較的友達がいて、楽しく過ごしていると思っていましたが、実際には今回のテーマに関係して、人間関係が狭かったり課題があることが分かってきました。そのあたりのことについて、青葉さんにお聞きしますが、里親さんは気がついているのでしょうか。

(青葉)

そこが実は気づいていないと思う。深谷先生の言葉で言えば、聖の方は比較的頑張っている。児童相談所も国もそれに向けて応援している。俗にあたる部分、群れて悪いことをする部分については、公はそこまで諒解できないのではないのでしょうか。里親さんも、少し育てた経験を持つ人は気づいています。どうして家の子パツとしないのか、裾野が狭いからだと気がついています。でも分かったときでは遅いのですね。だから中高生での悪を評価してあげられる里親にならない。

(池上)

青葉さん、里親家庭は里親が承知すればスマホを持つことができますか（里親の責任で縛りはなし、里親手当をそれに使う雰囲気はある。青葉）。

(青葉)

ただし、スマホの使い方もゲームで使うことは多いけど、人間関係でやりとりするのはあまり見たことがない。

(中山)

里親同士の集まりはあるでしょうが、里子同士が集まるような機会はあるでしょうか。

(青葉)

これが難しいです。特別なプログラムを組んで、年1回集まることはあっても。横のつながりを持ってない。社会的養護の人が今SNSで発信していますが、多くは施設出身者です。後ろで施設職員の先生が応援しています。

(深谷昌志)

部活関係は入っていますよね(「入っています」青葉)。部活が終わったあとにマクドナルドへ行きますよね。里子さんたちは行きにくいのでしょうか。

(青葉)

そもそも里子は誘ってもらわないですよ。行く組と帰ってきてしまう組ができるようです。(「どうしたらよいんでしょう?」深谷)

まずはこうしたことを里親さんに知ってもらわないといけませんね。児相もそうです。行政も福祉局にいる人が分かってくれないと。

(深谷和子)

先ほど指摘しましたように、これは里子の問題だけでなく、今の子ども一般の育ちの問題だと思います。ですから、里親がこのあたりをどのくらい意識して里子を育てているのかを調査する方法はあると思います。

(深谷昌志)

確かにこれまでの調査では、聖のあたりはいろいろ聞いていますが、そうじゃない部分の質問項目は少ない気がします。そう意味では今日の話に意味があるのではないのでしょうか。

(中山)

ここにおられる先生方がテーマに関係して俗に関してどのような認識がもてるかがポイントになっているかと思いました。青葉さんのように考えられている里親(経験者)はおられるのでしょうか。

(青葉)

卒業後25歳ころまでを見ている里親の方は、たぶん気がついていていると思います。だけど終わってしまったことですからね。青年期に悪さを教えなかったことについては、もう取り戻しはできませんから。

本人調査を5年ごとに東京都はしているのですが、あなたはどんな仕事についていますか。本当のことを書いてあるのですが、キャバクラとか、きれいごとではなく、パチンコ屋とか、それが悪いということではないですよ。聖の世界とはギャップがあるんです。した。

○今の子どもの育ち

(石田)

途中から失礼します。子どもが発熱したとの連絡があつて。

里子独自の問題なのか、子育ての問題、幅の狭さが現代の問題なのか見づらくなっていることもあるので、調査項目によっては、里親以外の方にも聞くという方法も考えられるかと思いました。実子を育てる親にも聞いてみないと、里子独自の問題か、時代を反映している問題なのか分からない。たとえば遊びについていえば、私たちの時代は特に断りもなく友だちの家に遊びに行ったりしたが、今はないんですよ。いまはまず親が介入して、遊びに行つていいかを聞いて、お邪魔にならない時間に行く。子ど

も同士のやり取りで自由に行き来することが出来なくなっている。また、東京では家が狭いので公園に集まって遊ぶことがあるが、地方ではそういうことがないように聞いている。いまの大学生も経験が少ない。すべて聖で過ごしてきているような、まじめに勉強しているが、社会のことを知らないと思います。

自立の概念がさまざまで先行研究を見ているが、ひきこもりに関する自立の概念ですが、経済的な自立については問題ないが、社会生活の自立に問題がある。人間関係とか社会の中でどのようなポジションに自分を置くとか。施設を退所した人の困っているデータでは、生活のことや将来のことで、25歳の壁が見えています。里親さん以外の方の比較データも知りたい。

さらにいろいろな方が今、里子支援に参加するようになってきたとの話を以前青葉さんからうかがったように記憶しているが、そうした指導にズレはないのかが気になっている。里親以外の方にもテーマに関係して聞くとかできないかと思った。

(中山)

きょうはさまざまな大事な視点が協議されましたが、実際に調査をするにあたって、今日のことを踏まえて今後どのような準備が必要でしょうか。

(深谷昌志)

「聖と俗」から考えてきましたが、これまでの研究から表（聖）の学習のプロセスにはかなり追ってきたと思うのですが、俗の方は、遊びの集団とかギャング集団とか遊び仲間のこととか、青葉さんが気にされているように、仲間集団の経験を持っていない育ちの問題とか幼稚園、小学校低学年とか、それなりの発達段階を追って行って、この部分は欠けている、この部分の問題があるとか、そのことが結果的に青年期になって発達のゆがみの形になっている。俗の文化の発達の流れを見る調査をこれまで入れていなかった。このあたりを調べることが大事であることに気がつきました。

(石田)

いまの話を聞いて思ったのですが、今の子どもの事ですが、おもちゃの取り合いなどしたとき、今の親たちは止めてしまうのです。子ども同士の行為の見守りが少なく、すぐにとめてしまう。迷惑をかけたくないとかで、里親さんたちもどうなのかと思いました。ここまでやると痛いとか経験させないで、「やめなさい」と止めてしまう傾向がある。

(深谷昌志)

アウトローの育ちの経験が欠けているから、20歳になったときにもろさ、何かが足りないことにつながっている。ぜひこれらを入れてみたい。

(深谷和子)

いまの子どもの育ちの問題はありますが、それを調査することが本グループの使命ではないと思います。もう少し考えた方がいいと思います。

(金城)

先ほど、今日の会議でお話したいと考えたメールで皆様に資料を送付しましたが(省略)。研究テーマは題目にあるように、若者の「自立と共感性」の獲得に関することですから、それに沿って調査票を作成する必要があると感じました。話題になった育ちに関するテーマについても別途検討できるのではないかと思います。

○今後に向けて

(中山)

本日話題になった、新たな視点や観点からテーマに即した研究ができればと考えます。て調査票にまとめられればいいと思います。今後の予定ですが、具体的に何をどのように質問するかについて、4月後半から5月にかけて調査票の具体化に向けた話し合いが持てればと思います。2年目は調査が中心となりますが。同時に事例についても計画し、里親さんから話を聞ければと考えています。

(金城)

今回、質問項目を試作しましたが(省略)、実際に里親さんに関連してインタビュー調査が出来れば、よりテーマに即した項目が具体化できると思います。できれば4月くらいにインタビューが出来ればと考えます。

(中山)

ありがとうございました。これで終了します。

2022.3.18

注) 科研費研究の組織

中山哲志、深谷昌志、深谷和子、金城悟、石田祥代、青葉絃宇、池上和子、内山絢子